

蛙の 独り言

登米祝祭劇場館長

山田 悦且

だ。コンサートにきつかけは昨年、登米祝祭劇場友の会初代会長の故菊田二郎さん(6月13日に死去)が「新市の文化振興に使用してほしい」と浄財を寄せてくださったこと。浄財を基に、私たちは

組織してもらい、運営を委ねた。入場者は約500人。クラシック系音楽会としては大成功を収めた。今回も団員を広く募り、7月上旬から夜間の練習を続けている。

登米市豊里町浦軒の主婦 及川のり子さん(38)

ときめき市民コンサート

響け100人ハーモニ

100人規模の「とめ市民合唱団」が10月15日、登米祝祭劇場に出現する。合唱団は競演する複数のプロ音楽家たちと、世界初と銘打ったコラボレーションで「荒城の月」も披露する予定だ。

登米市の誕生を祝って昨秋に開いた「ときめき市民コンサート」第2弾。

出演はほかに、尺八・箏の皖山会、仙台フィルハーモニー管弦楽団の木管五重奏、モンゴルの馬頭琴奏者。コラボ以外にも名演奏がめじる押し

出演はほかに、尺八・箏の皖山会、仙台フィルハーモニー管弦楽団の木管五重奏、モンゴルの馬頭琴奏者。コラボ以外にも名演奏がめじる押し

「とめ市民合唱団」



市民ら110人による「とめ市民合唱団」のハーモニが響き渡った—昨年10月10日、登米祝祭劇場大ホール

高校教諭、高橋由紀子さん。「コーラスは大勢であればあるほどハーモニが大きく、一人では味わえない感動を得られる」と話す。将来の夢は「交響楽団との競演」という。

音感の悪い私は小学生時代の合唱で、「声を出すな」と教師に言われた。そのトラウマが未だにぬぐえない。だが、歌い終えた参加者の笑顔がうらやましい。「同僚を誘って参加しようか」。そんな気持ちが芽生え始めた。

◇ 蟋蟀のすたく稲田を金色に染めて百余の和声響く夜